

M O R I S A W A

P A S S P O R T

英 中 韓 組 版 ル ー ル ブ ッ ク

j M 양 y 谓

种

貓

D

图

O

B

k

书

X

f

见

T

없

*Handwritten signature*

Q

记

a

类

로

喵

↑

R

沒

g

**RC**

哪

v

这

f

MORISAWA  
PASSPORT

英 中 韓 組 版 ル ー ル ブ ッ ク

j M 种 양 D y

O 见 谓

书 猫 T k

5 图

없

B Q a 记

한 喵 类

gg ↑ R 沒

这

哪 v X f

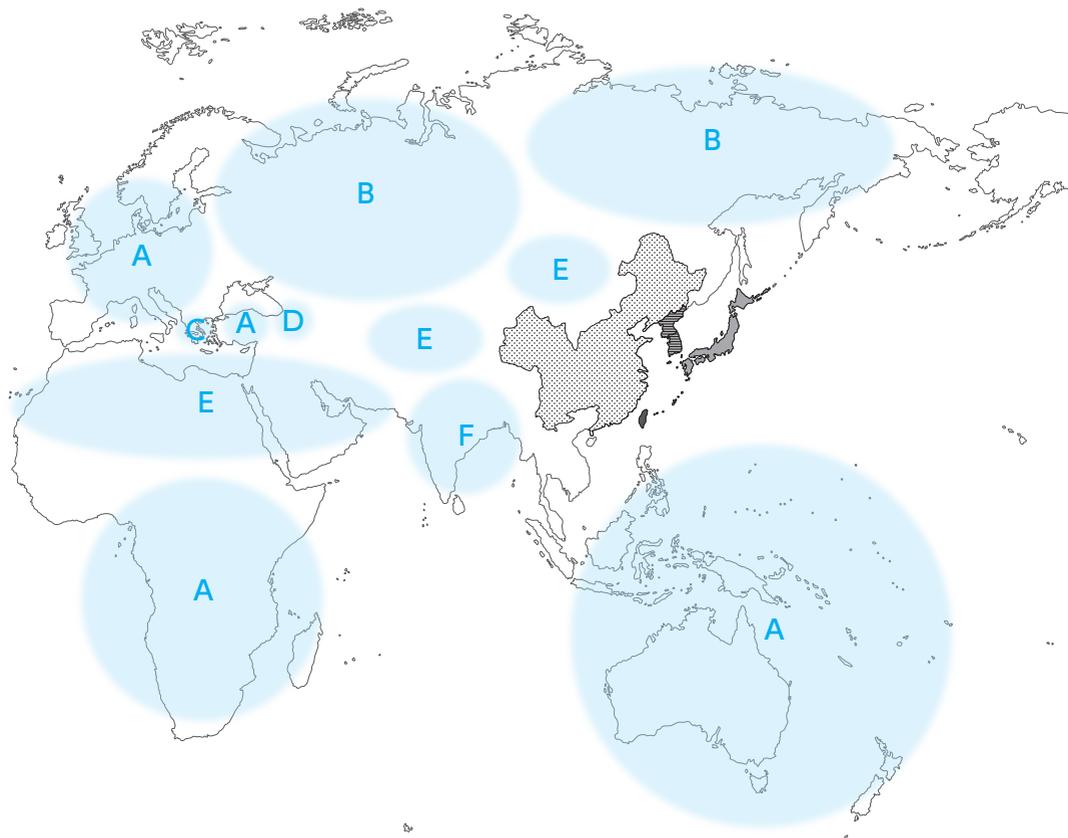
# MORISAWA PASSPORTの多言語対応

## さまざまな言語と文字

MORISAWA PASSPORTはこれまで和文書体を中心に、数多くの言語のフォントを提供してきました。和文以外では、欧文フォント(ラテン文字)、中国語の繁体字フォント、簡体字フォント、韓国語フォントをリリースしているほか、2014年からは、Rosetta社(ロゼッタ)が持つキリル文字、ギリシア文字、アルメニア文字、アラビア文字、デーヴァナーガリー、グジャラーティ文字の各言語フォントが加わっています。

MORISAWA PASSPORTでは、世界各地の文字環境に対応していくことで、グローバル化が進むコミュニケーションを、文字・書体という側面からサポートしています。

本書『MORISAWA PASSPORT英中韓組版ルールブック』は、日本語と合わせて使うことが多い、英語、中国語、韓国語の基本的な組版ルールをまとめたものです。



## アジア圏の文字

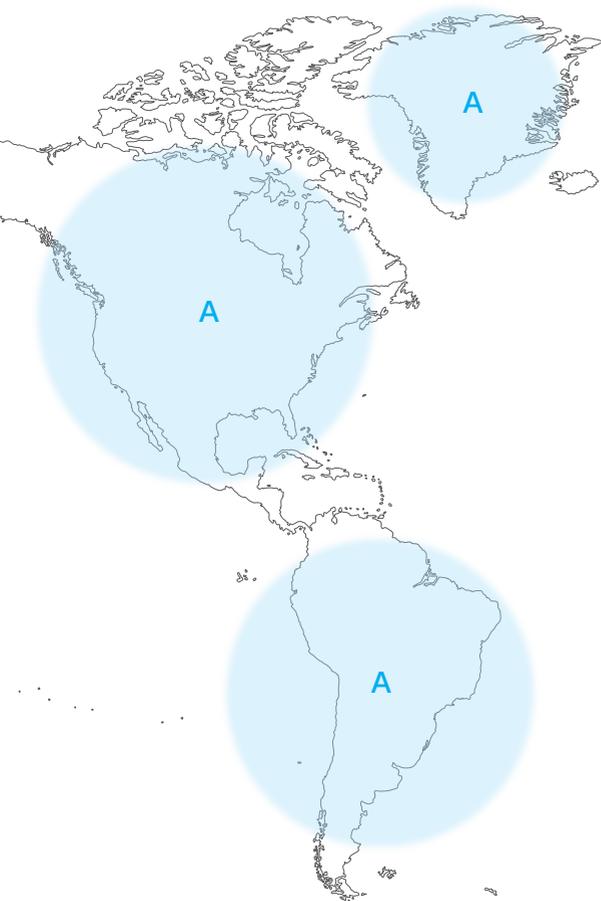
繁体字と簡体字はいずれも中国語(漢語)を表記するためのもので、繁体字は台湾、香港、マカオなどで使われ、簡体字は中国、シンガポール、マレーシアなどにも使用されている文字です。

これらの書体がMORISAWA PASSPORTで提供される背景には、中国、台湾、韓国などからの旅行者が増加したことで日本国内においても、中国語、韓国語を併記したいというニーズが高まっていることが挙げられます。

文字コードは、繁体字では「Big5」、簡体字では「GB」がよく知られています。2001年8月以降、中

国で流通するコンピュータ、ソフトおよび出力機器製品には「GB18030」を実装することが定められています。モリサワで提供する簡体字フォントはこの規格に準拠したフォントも用意しています。

また、韓国語フォントは標準韓国語コードセットのKS C 5700 (1995):ISO 10646-1/Unicode 2.0に基づきます(現在はKS X 1001に改番)。これとは別に、繁体字にはAdobe-CNS1、簡体字にはAdobe-GB1、ハングルにはAdobe-Korea1という文字コレクションもありますが、これらはGB18030などの公的な文字セットを内包する形で存在しています。



## MORISAWA PASSPORT 提供書体がカバーする言語領域

- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| ● 日本語  | A ラテン文字                  |
| ● 簡体字  | B キリル文字                  |
| ● 繁体字  | C ギリシア文字                 |
| ● ハングル | D アルメニア文字                |
|        | E アラビア文字                 |
|        | F デーヴァナーガリー<br>グジャラーティ文字 |

# MORISAWA PASSPORTに収録されている 多言語フォントのフォントベンダー

## Font Bureau社の欧文フォント

Font Bureau(フォントビューロー)社は、1989年に設立されたデジタル書体の先導的存在です。正式な社名をThe Font Bureau, Inc.(以降、Font Bureau)と言います。

25年に渡り、アメリカのトップ出版業界向けにカスタムフォントを提供してきたほか、市場で高い評価を受けている多くのフォントを販売しています。また、Webサイトで高度な文字表現を可能にするWebフォントサービス「Webtype」を提供しています。

## ARPHIC社の中国語フォント

ARPHIC(アーフィック)社は、1990年に台湾・台北で設立されたフォントメーカーで、正式な社名を文鼎科技開發股份有限公司(ARPHIC TECHNOLOGY CO., LTD / 以降、ARPHIC)と言います。

中国語繁体字、中国語簡体字、日本語、韓国語、英語、ラテン系言語などの数百を超える書体を扱うほか、組込み用ビットマップフォントの製作、ヒンディー語やアラビア語などの複雑な組版を可能にするレイアウトエンジン「Arphic Layout Engine」の開発など、アジア圏の文字にまつわるさまざまなソリューションを提供しています。

提供される書体は、スタンダードなゴシック体と明朝体を中心とした繁体字フォント5書体と、本文からディスプレイまで幅広い用途に応える簡体字フォント5書体の計10書体。

組込みシステムに強い同社の書体は、表示媒体の多様な特性に合わせて、新しいデザインエレメント

を取り入れており、スクリーン上での表示にも紙への印刷にも最適化されているのが特徴です。

## HANYI社の中国語フォント

HANYI(ハンイ)社は、1993年に中国・北京で設立されたフォントメーカーで、正式な社名を北京漢儀科印信息技术有限公司(Beijing Hanyi Keyin Information Technology Co.,Ltd / 以降、HANYI)と言います。中国においてももっとも早く、書体のデザイン、漢字の情報技術研究、文字ライブラリの開発、漢字ソリューションに取組み、設立以来、国内外市場に向けておおよそ200もの国家標準中国語簡体字(GB18030-2005)、繁体字(BIG5)をリリースしてきました。HANYIのフォントは国家の認定機関より認定されているほか、中国新聞出版総署の推薦により、国家の標準フォントライブラリとして広く使用されるなど、高い評価を得ています。

MORISAWA PASSPORTで提供される同社の書体は、本文から見出しまで、使いやすい明朝系簡体字3書体と、ゴシック系簡体字2書体の計5書体。モリサワフォントとの相性もすぐれ、日中併記の際にも違和感なく組み合わせることが可能です。

## SANDOLL社の韓国語フォント

韓国(大韓民国)で使われているのは、「ハングル」と呼ばれる表音文字で、子音と母音のいわばパーツを組合せることで1文字を形成する非常に合理的な構成になっています。ハングルは韓国のほか、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)でも使用されていますが、北朝鮮では漢字まじりで表記するのに対し、韓国では漢字を使わずハングルのみで表記する

のが一般的です。SANDOLL(サンドル)社は、韓国最大のハングルフォントデザイン会社で、正式な社名をSANDOLL Communications Inc. (以降、SANDOLL)と言います。タイポグラフィにおける豊富な知識とノウハウ、フォント制作における高い技術力によって支えられる同社のハングルフォントは、デザインのトレンドに柔軟に感応。韓国のデザインの大きな原動力となっています。

## Rosetta 社の多言語フォント

Rosetta 社(ロゼッタ/Rosetta Type Foundry s. r. o.、以降Rosetta社)は、チェコ共和国に本社を置く、フォントの開発・販売会社です。

Rosetta 社のフォントは、ラテン語、アラビア語、アルメニア語、ギリシア語、ロシア語、グジャラート語など、

172の言語をカバーしており、その高品質なフォントは、多くのデザイン賞を受賞しています。

Rosetta 社のフォントには、「マルチスクリプト」という特徴があります。これは英語とロシア語の併記や、ヒンディー語とグジャラート語の併記といった異なる言語の併記の際に、デザイン的な整合性が取れるよう、あらかじめひとつの書体デザインに対して、複数の言語に対応した文字の設計を行なっているもののことを言います。MORISAWA PASSPORTで提供されるRosetta社の「Skolar」は、ラテン文字、キルル文字、ギリシア文字、デーヴァナーガリー、グジャラート文字の6種の文字に対して、「Nassim」はラテン文字とアラビア文字に対して、「Arek」はラテン文字とアルメニア文字に対して、それぞれデザインの整合性が取られています。

### 「Skolar」のデザインにみるRosetta社のマルチスクリプト・タイポグラフィ

Rosetta 社のフォントの特徴のひとつである「マルチスクリプト」とはどのようなものなのでしょう。下は「Skolar」を使用し、英語(ラテン文字)、ギリシア語(ギリシア文字)、ロシア語(キルル文字)、ヒンディー語(デーヴァナーガリー)、グジャラート語(グジャラート文字)で「Tokyo」を表記したのですが、文字から受ける印象が統一されていることがわかります。

通常、こうした複数言語による表記の場合、それぞれの言語に対応したフォントを使用しますが、作業者のフォント環境によってはデザインの統一が困難でした。「Skolar」をはじめ、Rosetta社のフォントは、同社が提唱する「マルチスクリプト・タイポグラフィ」という概念に基づき、こうしたシチュエーションでも、同一の印象になるように設計されています。

Tokyo Tókiø Токио  
トキヨ 토크요